

総合基本計画審議
会の顔ぶれ(○印は委
員長、●印は委員長職務代
理、五十音順)
井上 明美(婦人会)
岩崎 庄一(大学教授)
川崎 定人(商工会)
山崎 寛行(農協組合)
佐々木 洋一(会社役員)
須藤 耕作(教育委員)
塚原 正一(市議会議員)
富永 廣平(市議会議員)
長山 永二(公務員)
西村 裕子(婦人会)
間々下 貴次郎(市議会議員)
三上 隆威(公務員)
村上 甚作(市議会議員)
谷田部 啓治(市議会議員)

こまえ

広報

でんわ

狛江市役所	☎ (480) 1181
水道課事務所	☎ (480) 0201
消防署	☎ (480) 0119
福祉会館	☎ (480) 3201
岩戸児童館	☎ (489) 5414

基本構想特集

“水と緑の町”へ素案

狛江市基本構想を諮問

▲多摩川の岸辺に今なお残る緑の自然——市民には貴重なこの場所だ。

さる四十五年、人口六万で市制のスタートを切った狛江市は、育ち盛りのこのものように、毎年大きな変化を遂げつつあります。マンション、アパート、個人住宅が、数か月のテンポで、狛江の表情を変えています。畑だったところが住宅街に、広い野原には近代建築がニギニギ。いろいろの作業着姿の若者でにぎわう工場街。一方で、自動車の交通量増大による排気、騒音、交通渋滞、さらに、住宅の密集による日照権、騒音など、都市の病が、ここここと不気味な頭をもたげつつあります。

成人狛江市の育成方針

都市化——それは無秩序なベクトル・タウン化であってはなりません。いまこそ、成人狛江市の「育成」方針をガッチリ建てる時機なのです。

市では、このほど、「狛江市基本構想」の素案を練りあげ、狛江市総合基本計画審議会に市長が諮問しました。現在、同審議会、審議が進められていますが、ここで、素案の概要を紹介し、市民の皆様からの積極的な「町づくり提案」をいただき、市民ぐるみで都市構想を最終的には決定したいと願っております。



都市へ4つの柱

のあらまし

ふえつづけてきた狛江市の人口は一応おちつきをみせているといえいふこと、増加し続けることは必至ですが、百年の計である基本構想を実現するための一応の中間的長期目標年次を、十二年後の昭和六十年に設定し、そのときの人口を八万人とします。

住宅地の性格を強く持つこと。

▽都市の発展の核となる地区、施設がないままに、市街化、住宅地化が進んでいる。

▽伯江市の動脈ともなる、独自の交通網が未整備であり、交通問題に大きな難題を持っている。

▽最近、緑地、湧水池などの環境から、多摩川などの河川、水路の汚濁がはげしい。

多摩川

▽保健所、警察署、市民集会所など、都市の施設が十分でない。
以上のような「問題意識」から、具体的な都市づくり構想を積み上げていきます。

素案は、まず、大きく四つの柱に分けてそれぞれ目標を設定していきます。

と市内の緑です。

まず、多摩川の堤防などに自然観察路やグラウンドを整備して、市民のレクリエーションの中心にし、文字どおりの市民のオアシスにします。また、泉龍寺の霊泉などの湧水池などに清流を回復し、メダカやアユを再び呼びもどした

第二は、「自然環境と融和した魅力あふれる都市づくり」——都市基盤と環境。

第二は、「安全で健康な生活がいと名める都市づくり」——安全

いものです。このために、公共下水道工事が現在展開中です。多摩川の清流化のためには、特に流域市町村と密接な協力体制をとります。

なわけです。

しかも、同駅は、昭和六十年には、一日の乗降者三万人が予想されます。

ここには、駅前広場をタツブリと

には、強力な行政指導をおこない、会社、工場などの移転の際は、跡地をできるだけ公共用地として確保します。

などを中心とする市内循環バス路線が必要なわけですから、循環系の道路整備をお願いします。

また人と車の分離をはかるために生活のための一般道路の整備

配慮により味もそっけもない、いわゆる「都会」にならないように配慮していきます。

ない

A stylized illustration of a bird, possibly a duck or goose, flying over a landscape. The bird is depicted in profile, facing right, with its wings spread. Below the bird is a body of water, represented by a series of wavy lines. In the foreground, there are several trees with rounded, textured canopies and thin trunks. The background consists of a dense, textured pattern of small, repeating shapes, suggesting a forest or a field of tall grass. The overall style is simple and graphic, with a focus on natural elements.

多摩川ぞいのオアシス

① 都市基盤と環境

ます。また周辺地区には、市民センターなど行政、文化の、各種機

差が進んでいないので、消防、救急をはじめ行政サービスに支障が

住居表示を実施して市民の利便をはかる一方、行政サービスの向

災害、事故に備える

② 安全と保健

六階、七階というマンションや工場がふえるにつれて、心配なの

は、火災。現行の市消防体制ではその機動力や機械力では不安な面

があります。そこで、まもなく東京消防庁に業務を委託していくこ

れる昨今ですが、万一に備えての市民防災組織の育成、防災思想の

景



住みよい町へ下水道工事も着々と進められている

現在は、武蔵調布保健所の管轄下にありますが、「狛江保健所」の設置を強力に都に働きかけます。救急医療体制も整備します。

警察署の誘致を実現するほか、

交通安全対策とし 安全施設の

「公害は芽のうちに」を目標に調査、監視体制の充実をはかる一方、公共下水道の整備を急ぎます。ゴミ、し尿などの衛生処理能力も、余裕のあるものにしていきます。

よる多摩川、用水路の汚染などが主なところ。最近ではマンション工場の高層化による日照権問題もクローズ・アップされつつあり、住宅の密集化によって、クーラーの騒音や悪臭などの生活公害も出てきています。

普及、徹底をはかる一方で、都市の不燃化、耐震化などにも配慮した街づくりをします。

公害は、現在のところ自動車の排気ガスによるとみられる光化学スモッグ、生活廃水、工場排液に

に、非常備消防力を整備して、常備、非常備消防が有機的に連けいして、より強力な体制をとります

大震災がいろいろと取り沙汰される昨今ですが、万一に備えての市民防災組織の育成、防災思想の

つくり出し提供します。

の連帯感、コミュニケーションへの配慮により味もそっけもない、いわゆる「都会」にならないように配慮していきます。

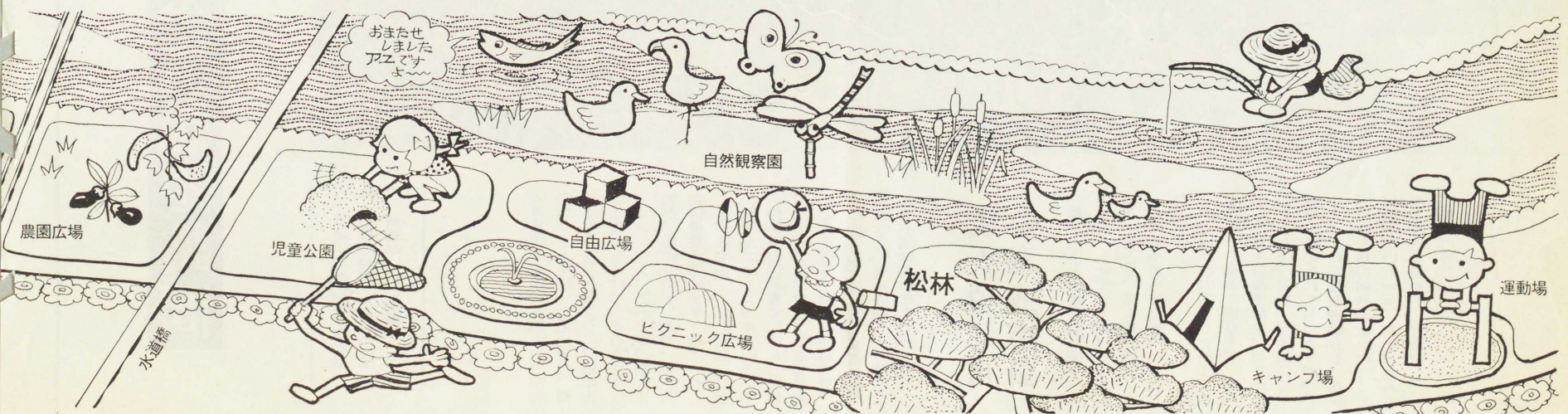
また近隣住区制を確立していくことによって、公共施設なども適正に配置することができるとし、一方では、都市化が進んでいくにつれて薄められていく一方の毎日生活している地域や社会におけるお互

で自動車が入りてきたり、駐していたりして、このもの通学にも心配がたえない現状を抜本的に改善します。

住居表示を実施して市民の利便をはかる一方、行政サービスの向

なごして、歩行者の安全確保と三
機能的な道路網体系をあわせて
確立します。

こんな楽園も夢ではない





水と緑の町にふさわしく、市民いこいのきれいな水をよびもどしたい

住みよい住宅

市長 素

老若、婦人のために

③ 福祉と教育

水と緑の環境が、生活の入れものだとすれば、充実した福祉の施設や制度、教育・文化機関は、生活の中味の重要な部分です。母子家庭の所得保障、さらに心身障害児とその家庭には、保育と訓練の場をつくることも所得保障、医療保障に万全を期します。婦人の社会進出とともに、特に主婦の過剰負担が心配されますが、健康診断を定期的なものに制度化するなどの充実をはかります。老人問題は、核家族化が定着して、特にその傾向の主流となっている勤労者家族の急増とともにますます重要になってきます。老後の自立を支えるために年金制度の

充実、老人医療の無料化を進め、また社会参加の場を積極的につくり出していきます。定期的な健康診断の制度化もはかります。寝たきり老人にはホーム・ヘルパーをキメ細かく派遣する体制もつくります。勤労者の大部分を占める青壮年層の地域社会に対する関心を深めるための場をつくります。近隣住区構想にもとづく学校の適正配置と学区の再編成を考慮します。地域と学校の関連を一段と密にして、校庭なども積極的に開放していくことで、いわゆるコミニティ・スクール化を促進していきます。このことは、婦人の社会進出にももたらす夫婦共稼ぎの家庭がふえて、いわゆる「カギツ」が一般化するとも予想されます。こうしたケースに対処するために、保育所などの施設を完備していく一方「チビツ子広場」などの安全な遊び場も各所に設けていきます。週休二日制の普及とともに、市民のレジャー施設の整備も必要になってきます。市民体育施設を設

け、これを中心とする各種のクラブ、

団体の育成などをはかります。市立図書館の建設にも取り組みます。人口増に見合う、小・中学校の増設も必要です。第八、第九小学校の新設は、さし迫って必要ならはります。

グリーン・ネットワークを活用した通学路、歩道を整備します。防犯でも、街路灯を多くして、明るい街路づくりをする一方で、警察と地域団体の防犯体制の強化をはかります。

駅前を商業の核に

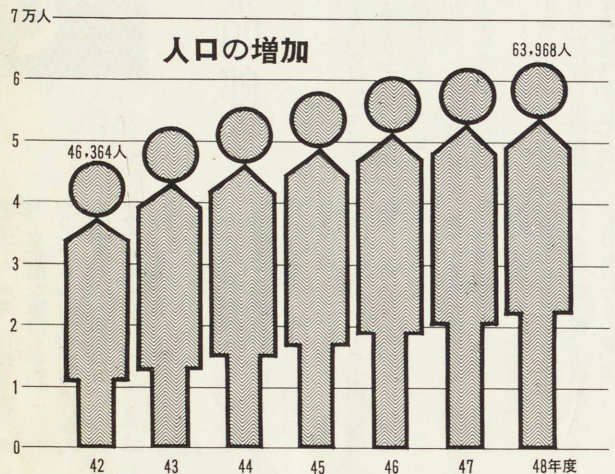
④ 商業と経済

泊江市の従来の基幹産業であった農業も大きく変身する時代を迎えるわけです。宅地開発などへいならず農地を明けわたしていくことは、緑と水の泊江の生命を売り渡すことにもなり、生産緑地としてグリーン・ネットワークの中で、新しい使命をおくるわけです。レジャーや趣味の園芸農園、また新鮮な野菜、果樹、花き、などの庭園樹の生産など都市農業がそれぞれ、また、都市防災の上からも、ぜひ必要な「空間」としての機能をもちたいわけです。工業は、大都市近郊としての立地条件の有利さを持ちながらも、住宅都市・泊江との調和というむづかしい問題をかかえているわけです。ノー公害が最優先するわけですが、従来の工場の体質改善や経営の合理化近代化などによって、適正規模内の育成をはかり、泊江市の活力としての工業の安定的成長をはかり、さらに土地利用の面からも立地の適正化と集

X X

X

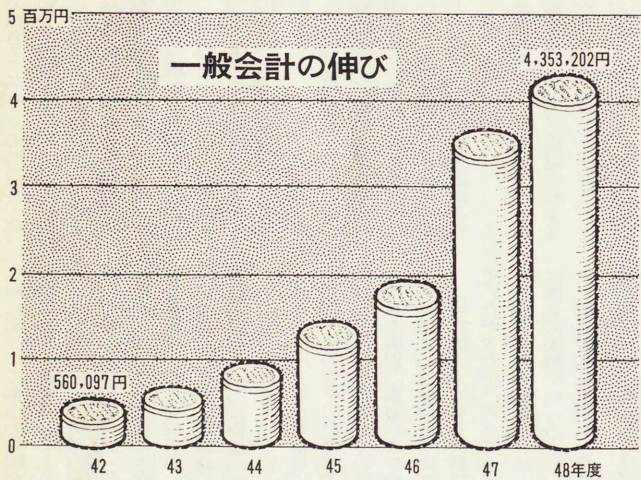
人口と予算の移り変わり



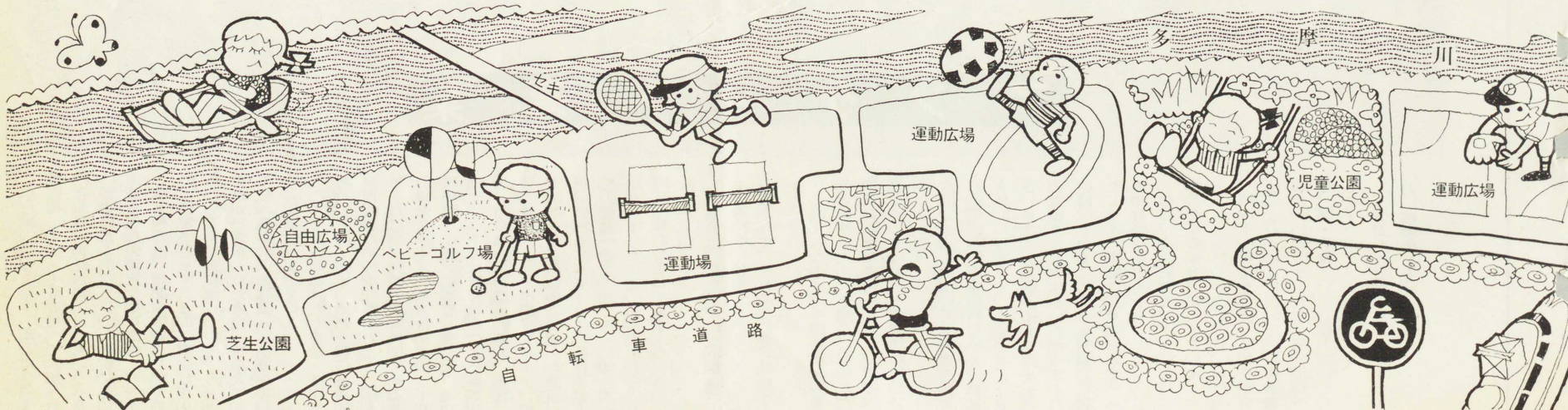
注1 45年10月1日市制施行

注2 47年度は第三中学の用地買収費など10億円で急増した

一般会計の伸び



自然いっぱいの都市公園



基本構想は市民の手で

町づくりにあなたの夢を

市長 吉岡金四郎

水と緑のタツプリとした近代都市。わたしの夢の中の伯江は、いつもしたるような緑、あくまでも澄み切った豊富な水、新鮮な空気の中で思っています。いま「伯江百年の計」が、ツメの段階を迎え、審議会委員の皆さん、いろいろな角度から検討いただいておりますが、わたしの

長年の夢も、まさに「まき夢」へと結実しつつあるようです。都市づくりは、あくまでも市民の皆様のもの。みんなが幸福になる町づくりでなければなりません。二十年先、三十年先にも、人類の生存をかけたようなまで深刻化している「公害」などの問題、伯江の再開発は、さしずめ「ソ」にあたるものです。

あつても、不安の芽はそこそこ頭をもたげようとしているのが現実です。清流をとりもどし、アユの踊る多摩川こそ、ノー公害伯江のシンボルといえるのではないのでしょうか。清流多摩川が、都市づくりの「目玉」とするならば、小田急線伯江駅前の再開発は、さしずめ「ソ」にあたるものです。

また、伯江は、ご承知の通り「歴史の里」でもあります。ついせんだつても、第一小学校敷地の古代遺跡の発掘でもそれを裏付けております。郷土館、史料館といった「わたしたちの町づくり」に、市民の皆様が積極的な発言、ご協力をお寄せいただければ幸いです。

このたび審議会から広く市民の意見を募集して答申したいので市長の提出した案（たたき台）について市民の皆様からご意見を伺いたいという要請がありました。

審議会のあつてを「三ページに載せたのでご意見をください」という趣意で、別添の「ご意見書」を御記入いただき、御返信をいただきますようお願いいたします。

審議会では、これら市民の御意見を踏まえて、市長に答申できることを念願している次第です。

ないところにするためには、ここを核として、機能的な道路網が必要で、商業、行政サービス機関、文化的な施設も必要です。もちろん、いろいろな問題がひかえています。伯江の「百年の計」というマクロな視点から、じっくり話し合いを詰めていきたいと思います。

交通渋滞の原因ともなっている小田急線と幹線道路の路切りの問題にしても、一か所、二か所の立体交差を可能にする小田急線の高架化の可能性も重要な検討課題です。

このたび審議会から広く市民の意見を募集して答申したいので市長の提出した案（たたき台）について市民の皆様からご意見を伺いたいという要請がありました。

審議会のあつてを「三ページに載せたのでご意見をください」という趣意で、別添の「ご意見書」を御記入いただき、御返信をいただきますようお願いいたします。

審議会では、これら市民の御意見を踏まえて、市長に答申できることを念願している次第です。

審議会では、これら市民の御意見を踏まえて、市長に答申できることを念願している次第です。



伯江市基本構想に熱心な討議を重ねる審議会

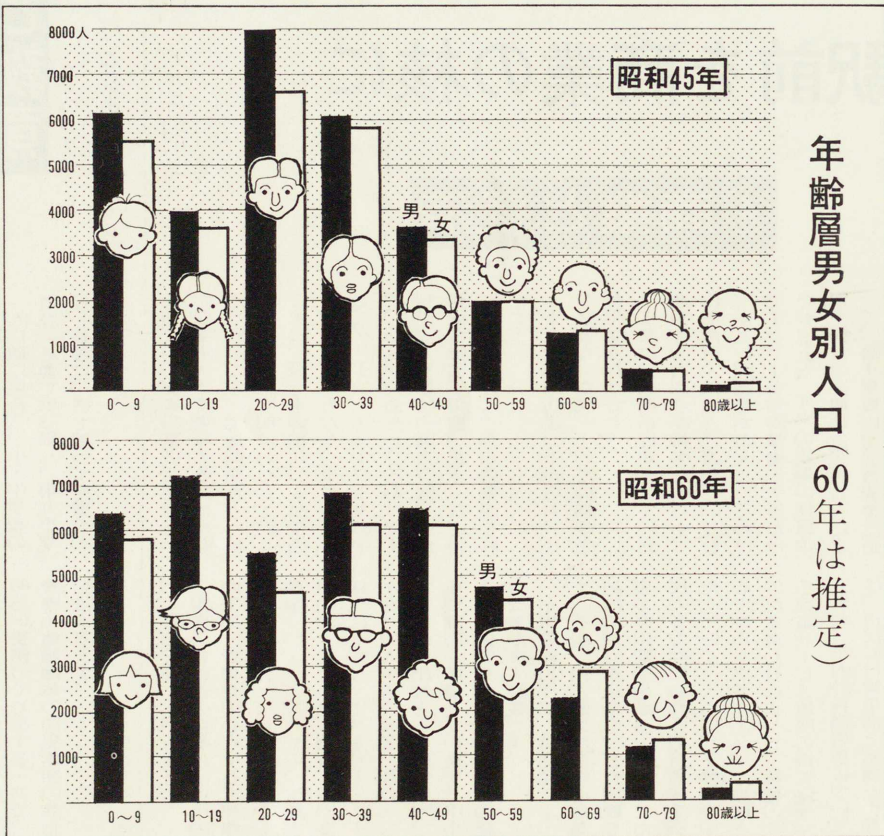
審議会の動き

- 5月25日 第一回審議会
委員長に武藤甚作、同職務代理者に富永正一が決定
- 6月9日 第二回審議会
市長、「基本構想の素案」を添えて諮問
- 6月20日 市長、「基本構想の素案」を添えて諮問
- 6月23日 第三回審議会
第一分科会（分科会長 武藤甚作、同職務代理者 佐々木洋一）第二分科会（分科会長 富永正一、同職務代理者 岩崎庄一）第三分科会（分科会長 間々下貴次郎、同職務代理者 谷田部啓治）を設置
- 7月18日 基本構想策定に関する先進市視察
埼玉県熊谷市、谷市
- 7月18日 第一分科会
7月26日 第二分科会
8月2日 第三分科会
8月9日 第四分科会
8月17日 第五分科会
8月23日 第六分科会
8月29日 第七分科会
8月31日 第八分科会
9月5日 第九分科会
9月7日 第十分科会

（9月7日までの分）

市民の総意を集約した答申を念願

総合基本計画 審議会委員長 武藤甚作



年齢層男女別人口（60年は推定）

さわやかな初秋の候、市民の皆様にはお変わりなくお過ごしのことと存じ上げます。いま、当審議会では伯江市の基本構想について審議しています。

このたび審議会から広く市民の意見を募集して答申したいので市長の提出した案（たたき台）について市民の皆様からご意見を伺いたいという要請がありました。

審議会のあつてを「三ページに載せたのでご意見をください」という趣意で、別添の「ご意見書」を御記入いただき、御返信をいただきますようお願いいたします。

審議会では、これら市民の御意見を踏まえて、市長に答申できることを念願している次第です。

審議会では、これら市民の御意見を踏まえて、市長に答申できることを念願している次第です。

審議会では、これら市民の御意見を踏まえて、市長に答申できることを念願している次第です。

このまちに市民の意見をアンケート募集

水と緑の町づくり。市では7月1日付広報こまえ（168号）でお知らせしたとおり、伯江百年の計というべき市の将来の基本的なビジョンを定める伯江基本構想の策定作業を進めています。基本構想は、市議会の議決を経て最終的に決定されます。この市議会に提出するための市長案作成について、6月20日市長から案（たたき台）を添えて伯江市総合基本計画審議会（武藤甚作委員長）に諮問を行いました。

この市長案（たたき台）を作るにあたっては、昨年の当初予算に基礎的資料作成のための委託料を計上し、昭和47年7月に都市問題の研究機関である総合計画センター（代表者片桐達夫、千代田区千代田2-18）に委託しました。総合計画センターでは既存資料による客観的分析、市議員からの意見の聴取、市民の意見の聴取（2回、市民アンケート、市内実地調査など）からなる調査、分析、研究して本年4月に「伯江基本構想の提案」をまとめ、市長に報告書が提出されました。この報告書をもとに市の内部で検討を重ねて案（たたき台）を作ったものです。

審議会では、いままでに5回開催され、また専門的に検討するための各分科会も設置されて、それぞれ活発な活動をしております。

このようなかで、今回審議会の審議の参考にするため、審議会に提出した市長の案（たたき台）に対し、市民のご意見を伺ってほしいという要請が審議会からありました。

今回、この広報臨時号に案を載せましたので、この広報に折り込んである受取人払いの「ご意見書」を、ご意見をお寄せください。みなさまからお寄せいただきましたご意見は、とりまとめのうえ審議会に提出いたします。期間は10月10日（水）（当日消印有効）までです。

なお、総合計画センターにおいて研究のために昨年9月におこなった市民アンケートにつきましては、無作為で千三百四十四世帯を抽出して秘密厳守の方法により「伯江市民の生活環境調査」をお願いいたしましたところ、回収二千三百枚、76・6%という協力をいただきました。大変遅れながらもアンケートのご協力に感謝申し上げます。